着床外来　ご案内

東京大学医学部附属病院　女性診療科･産科　着床外来

着床外来の概要

- 胚移植に向けて、血液検査や子宮内膜の検査を行い、治療方針をご提案します。
- 本外来では、初診の日に当院で行なっている検査についてご紹介し、個別の状況に応じて必要なものをご選択いただいています。
  初診時に予定を立ててから、ホルモン補充の開始、検査実施、結果説明までを、おおよそ6-8 週間で行っています。
  また、検査結果に応じて、治療後の再検査をご提案しています。
- 本外来は木曜日の午前中に行っています。詳細は別紙や予約票をご確認ください。

当院でご案内している検査

 cineMRI 検査 （子宮の動きを見る MRI）	・卵巣や子宮の病変を確認します。 ・子宮の細かな動き（収縮）も確認します。 ・閉所恐怖症または MRI 対応ではない医療器具を使用中の方は行えない場合があります。
 子宮内膜の検査	子宮内フローラ検査 ・子宮内細菌叢を調べます。 ・結果により治療（抗菌薬や乳酸菌腟錠など）を検討します。
	子宮内膜組織診（CD138 検査） ・慢性子宮内膜炎の有無を調べます。 ・結果により治療（抗菌薬や乳酸菌腟錠など）を検討します。
	子宮内膜受容能検査（ERA 検査） ・子宮内膜の遺伝子発現から「胚移植に適した時期」を推定します。 ・結果により胚移植のタイミングを調整します。
 子宮鏡検査	・子宮内の状態を内視鏡で観察し、ポリープや炎症の有無を確認します。 ・検査後は少量出血が続くことがあります。
 血液検査	ネオセルフ抗体検査

	・着床不全との関連が示唆されている 「ネオセルフ抗体」の検査を行います。 ・結果により治療（抗血小板薬）を検討します。
	その他 ・ホルモンの値などを調べます。

東京大学医学部附属病院　女性診療科･産科　着床外来